

事務事業名		博物館教育普及事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業		
政策体系	政策名	016 豊かな心を育む人づくりの推進			事業期間		予算科目 会計 款 項 目 事業		
	施策名	215 生涯学習の推進							
	基本事業名	021 市民の学習活動への支援			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 58 年度～) ☐ 期間限定複数年度 (計画期間) 年度～年度 全体計画欄の総投入量を記入		01 10 05 06 12		
根拠法令	博物館法								
所属	部課名	教育委員会事務局生涯学習課			総投入量 (千円) 事業費 人件費 トータルコスト(A)+(B)		国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計 (A) 0 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計 (B) 0 0		
	係名	博物館	電話	29-2161					
			内線	—					
事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) ・博物館資料や気仙地域の自然と文化について普及する事業。 ・主な業務は、体験学習/自然観察の実施、生涯学習相談/専門研究対応の実施、各種実務体験 (博物館実習/職場体験/社会体験等) の受入、学校教育との連携、博物館講座 (成人大学講座) の実施、小学生向け「博物館スクール」の実施、博物館交流の実施 (他市町村の博物館での学習活動)、博物館職員派遣の実施、所蔵資料の特別利用、個人所蔵資料燻蒸サービスの実施、インターネット情報検索用パソコンの供用、事業費は、自然観察会の講師謝金、各種消耗品、博物館交流用バス賃借料などに支出される。									

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)	
手段 (主な活動)		名称 単位	
前年度実績 (前年度に行った主な活動)		ア 博物館スクールの実施回数 回	
海辺の生物観察会・勾玉製作会の実施、生涯学習・専門研究への対応、各種実務体験の受入、博物館講座 (成人大学講座)、「博物館スクール」、各種研修会への職員の派遣、収蔵資料の特別利用 (貸出・撮影・熟覧)、個人所蔵資料燻蒸サービス実施。		イ 生涯学習相談の対応件数 件	
今年度計画 (今年度に計画している主な活動)		ウ 博物館職員の派遣回数 回	
海辺の生物観察会の代わりに植物観察会を、勾玉製作会の代わりに地質観察会を実施。また、県内の博物館をバスを借上げて訪問する博物館交流を実施。その他は前年度同様。		対象指標 (対象の大きさを表す指標)	
対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 市民		名称 単位	
		カ 人口 人	
		キ	
		ク	
意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか) 教育普及事業を通して、気仙地域の自然や文化について学ぶことができる		成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称 単位	
結果 (基本事業の意図: 上位の基本事業にどのように貢献するのか) 主体的な学習活動が行われている		サ 普及事業への参加者数 人	
		シ	
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (目標)	22年度 (目標)
投入量	事業内訳	単位						
	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	200	72	105	55	101	71
	事業費計 (A)	千円	200	72	105	55	101	71
	正規職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3
	延べ業務時間	時間	500	500	590	700	800	700
	人件費計 (B)	千円	2,000	2,000	2,360	2,800	3,200	2,800
	トータルコスト(A)+(B)	千円	2,200	2,072	2,465	2,855	3,301	2,871
活動指標	ア	回	4	5	5	8	8	8
	イ	件	50	62	65	58	60	60
	ウ	回	13	11	6	9	5	10
対象指標	カ	人	43,209	42,575	42,158	41,684	-	42,000
	キ							
	ク							
成果指標	サ	人	927	852	1,055	896	950	900
	シ							
	ス							

事務事業ID	0901	事務事業名	博物館教育普及事業
--------	------	-------	-----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

昭和58年、新館開館の翌年から、各種普及事業を開始した。

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

自然観察/体験学習は隔年開催にし、参加者のニーズに応じている。生涯学習相談/専門研究対応はその都度相談を受け付け回答している。各種実務体験(博物館実習・職場体験・社会体験等)は、希望者を受入れている。博物館講座(成人大学講座)は、中央公民館・図書館と連携して平成2年度から実施している。「博物館スクール」は平成2年度から開始し毎年4～6回実施しているが、平成20年度に初めて社会・理科両コース利用の学校があった。博物館交流は平成14年度から開始し、毎回参加者が多く好評である。博物館職員の派遣は、年間約10回の要請に応じている。収蔵資料の特別利用への対応は、毎年約10件ある。個人所蔵資料燻蒸サービスは平成11年度から開始し、毎年数件受付けている。

この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

・成人大学講座の受講生から、博物館講座については歴史・民俗分野の講師を望む声が多く、また、美術関係の講座も組み入れて欲しいとの要望がある。
・博物館交流の参加者から、バスで県内の博物館を訪問する形の博物館交流事業の継続実施を望む声が多い。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 普及事業への参加は、主体的な学習活動に直結する。	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 市の生涯学習施設である博物館が、普及事業を通して市民の主体的な学習活動を支援することは、市の施策としてふさわしい。	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 対象・意図ともに適切である。	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？
有効性 評価	成果の向上余地	☒ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない [理由] 募集定員に満たない事業は、あるべき水準との差異がある。事業内容に関する市民ニーズの把握不足や事業実施に関する情報提供の不足が主な要因である。	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 専門的な生涯学習の機会が少なくなり、市民の学習活動への支援に支障をきたす。	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 市民生活環境課の環境保全啓発事業では、小中学生を対象とした水生生物調査が行われている。 ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない [理由] 市民生活環境課の水生生物調査は環境保全、博物館の自然観察は動植物の学術的観察がそれぞれ目的であり、相違があることから統廃合できない。 ☐ 他に手段がない [理由]	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 自然観察・体験学習は隔年開催にするなど、事業費の削減を図っている。体験学習等で費用がかかる場合には、参加費を設定し徴収している。	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 費用を最小限にして市民の学習興味を喚起するためには、事業内容の工夫などに相当な人手と時間がかかることはやむを得ず、削減の余地はない。	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 体験学習、交流事業等で参加費用がかかる場合には実費を負担してもらっている。	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？

事務事業ID	0901	事務事業名	博物館教育普及事業
--------	------	-------	-----------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 海辺の生物観察会は海フェスタ実施事業として行ったことにより、ホームページやチラシで知った市外からの参加者が例年より多く見られた。勾玉製作会は、当館では初めて行った事業で、博物館交流事業の一貫として花巻市博物館と協力して実施した。夏休み中だったこともあり、多くの親子連れが参加し好評であった。「博物館スクール」は、三陸地区の小学校の利用が定着しつつあるとともに、1校で社会と理科の両方を利用する学校があった。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																				
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 海辺の生物観察会の代わりに植物観察会を、勾玉製作会の代わりに地質観察会を実施する。植物観察会は、これまで募集人数に達しない場合が多かったことから、観察場所と内容を吟味しながら多くの市民が参加しやすい観察会の企画に努める。「博物館スクール」は、今年度はじめて社会・理科の両コースを利用した学校が2校あったことから、他の学校へも周知し、参加校・参加児童数の増加を目指す。博物館講座(成人大学講座)は、市民が聞いてみたいと思う演目、及びその講師の掘り起こしに努める。	(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr> <tr> <th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>●</td><td></td></tr> <tr> <td>維持</td><td></td><td></td><td>×</td></tr> <tr> <td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		●																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 植物観察や博物館交流の場所選定は、事業の成果に大きく影響する。このため、調査研究を積極的に推進し、様々な場所で下見、準備をしてから適地を選定する。 事業の参加者募集について、事業実施場所の小中学校には集中して周知するなど、より積極的な情報提供を行うことで、一層の成果向上を図る。																						

	(職 名)	原則として施策の主管課長	(氏 名)
4 事務事業の2次評価結果	2次評価者	生涯学習課長	

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(3) 評価結果の根拠と理由 市民への事業周知をより努める必要がある。																				
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 継続して事業を実施していくが、市民への事業周知にさらに努めていく。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																				
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																				
(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr> <tr> <th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td>●</td><td></td></tr> <tr> <td>維持</td><td></td><td></td><td>×</td></tr> <tr> <td>低下</td><td></td><td>×</td><td>×</td></tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上		●		維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上		●																			
	維持			×																		
	低下		×	×																		

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
